

来るべき80周年へ

理事長 小田 拓也

湘南学園だより

No.111

行
園
り
部
発
南
園
だ
集
学
編

が農漁業を体験し、地元住民と寝食を共にして交流を深めた。」（中國新聞）今年度は高校研修旅行だけでなく、中学の研修旅行でも民泊の試みがなされました。記事は続いて次のように報告しています。

浮島での「離村式」では、生徒代表が「島の一員のように迎えてくれて、ありがとうございます」と涙ぐんだ。渡船で島を離れる際には生徒と受け入れ先の家族が互いに紙テープを手にし、「絶対にまた来るね」「いつでも来んさい」と別れを惜しだ。

記念すべき75周年に当たる昨年4月の年度始めにこの形態を「手作り経営」としましたが、1年半余りの間で、厳しい経営環境の当りにして、経営に求められる問題解決能力、インベーションと、この感覚の間に隔たりがあつたことを痛感しています。PT共同の法人運営体系の形態は他に類を見ないものと言えます。現状を見るにつけ、設立の理念を継承しつつも、本学が未来永劫に存続を図つて行く前提には、弛まない組織の革新を持続させ経営基盤を強固にして行く動きをつくることにのみその条件は充たされると実感せずにはおられません。

これまで設立から永い年月が流れましたが、惜しむらくは学校を支える基盤また支援する組織や力が必ずしも蓄積される形にはなり得ないできました。法人はこの実態を踏まえて、次の80周年を革新



「特別教育活動」

一十年を経て

湘南学園中学校高等学校

学校長 古市好文

「民家に宿泊する体験型の修学旅行の県内初の受け入れが十二日、十二日、周防大島町であつた。神奈川県藤沢市の湘南学園中三年生

研修旅行を含む特別教育活動は一九九〇年度からスタートして、今年で二十年を迎えています。六か年のカリキュラムをもつこの教育活動は中高教育における一つのアイデンティティになっています。文科省の「総合学習」導入以前から開始されており、その「総合学習」は外部発注の体験オンリーの様相によって、現在では後退していることは周知の通りです。一九九〇年、バブル経済のピークを迎えたが、惜しむらくは学校が必ずしも蓄積される形にはなり得ないできました。法人はこの実態を踏まえて、次の80周年を革新

会全体の教育力の低下という時代でもあったのです。

「地域」概念を変え、グローバルな視点で考えて、地域コミュニティからそこに生きている人から学ぶこと、そしてコミュニケーション能力と学び合う力をつけることを「特活」が目指しています。

教え込むだけでは生徒の学習主体形成をバックアップできません。二〇〇六年に経済産業省が提起した「社会人基礎力」の「前に踏み出す力」「考え方」「チームで働く力」という三つの構成能力を開発する「特活」もあります。

中等教育期という多感な思春期にこそ求められる『本来の基礎力』を形成のための常道ともいえる「特活」です。

中高における教育の基調となる「特活」は、新しい課題を持つています。それは大学進学を含めた六か年の基礎学力形成の学習指導、キヤリアデザインを踏まえた進学指導、そして行事イベントに陥らず生徒を主体とする活動へのバッカアップ、育てる生活指導という教育全般の課題と結びつけて総括化する取り組みです。「特活」二十年を経て、いよいよ教育の本格的総括が要請されていると自覚しています。そのために、まず「教員室の熱い論議」と生徒が必要であると思います。

奈川県藤沢市の湘南学園中三年生

の崩壊と家庭の空洞化という社

学園祭を終えて

～深まつた絆と連帯感。そして来年60回目に向けて～

生徒会指導主任 緒方哲也

高一研修旅行

学年主任 木下貴志

第59回の中高学園祭が10月3日（土）・4日（日）の両日にわたりました。今年の学園祭は、夏休み明けからの新型インフルエンザの影響で、準備の段階で活動がストップ。本当に当日が迎えられるのだろうか…との心配もありましたが、「創始のみんなが作り手になろう！」との今回のストーリーを実現すべく、「絶対に学園祭をみんなの手で成功させたい！」との願いが通じて、2日間を無事に終了することができました。

今回の学園祭は、昨年とはずいぶんと様変わりして、9クラスが食堂・屋台の参加でした。今回、映画や演劇のクラスがなかつたのが残念でしたが、どのクラスも創意工夫を凝らした手作りのクラス参加が行われ、来園者の方にも十分楽しんでいただけたのではないかと思っています。新型インフルエンザという「厄介者」の障害を乗り越えて取り組むことができた今回の学園祭。どの参加団体も、この学園祭を通じてクラスや同じ仲間同士の絆や連帯感がより深まりました。ひとつの行事をやり遂

げた満足感というものが、私達にも伝わってきています。

学園祭全体の運営を担ってくれた実行委員の生徒諸君にとつても、今回の学園祭は生涯忘れられないものとして、皆さんの記憶の中に深く刻まれたことでしょう。みんなが参加できる学園祭をどうやって創りあげたらいいのか、どんな学園祭にしようかと、前年度から何度も議論を重ねてきました。それでもなかなかうまく行かずに途中でくじけそうになつたこともありました。しかし、全体を引っ張つて行ってくれた高2の皆さん、奮闘ぶりと、最後まであきらめずに前に進もうと臨んでくれた生徒諸君のエネルギーには驚かされました。実行委員会の幹部の生徒の皆さん、本当にご苦労様でした。

来年度の学園祭は60回目を迎えます。そう言えば、今年のNHK紅白歌合戦も60回目。あの有名な平塚七夕祭りも、来年は学園祭と同じ60回目だそうです。「第60回」という、他のビッグイベントと肩を並べるほどの歴史と伝統を誇る我が学園祭?!：さて次回はどんな

学園祭になるのでしょうか。今回の学園祭が教訓となつて、来年度につなげる課題を見つけることもできました。これらを糧に、次回の記念すべき「第60回」の学園祭を、学園の新しい歴史を創り出すピッケルとして成功させて行きたいと思っています。

4月より早々に高2研修旅行のコース決定に向けて準備がなされました。そして旅行委員諸君のプレゼンテーションによつて原案が示され、最終的には「北海道コース」「東北コース」「山陰コース」「九州コース」「沖縄コース」の5コースに決定しました。その後生徒諸君はこれらの中から、希望のコースを選択しました。

実は今年の研修旅行でもつとも心配されたのが、インフルエンザに対する対応でした。旅行直前期に学級閉鎖、あるいは学年閉鎖という措置がとられた場合はどうなるのか、旅行中にインフルエンザ発症者が出了場合の対応はどうなるのか、民泊中に発症したら…・民泊先の方が…等々あらゆるケースについての対応と判断につ



10月26日より30日までの日程で高等学校2年生の研修旅行が実施されました。事故もなく旅行を終えることができました。（九州コースは、旅行最終日に空港での他の飛行機の事故により、現地にどまり翌日、帰着するという思いがけない出来事がありました…。）

いて検討を行いました。様々な状況に対応できるよう準備をすすめ、10月になると毎日が緊張の連続でした。正直なところ我々教員たちは、旅行前にすでに疲労のピークを迎えていました(苦笑)・・・

湘南学園高校の研修旅行企画のスタイルは、教員と生徒がともに実りのある旅行を目指し、ともに意見を出し合って準備をすすめるというものです。旅行委員が中心となつてコースの選定から旅行の内容決定まで進めていきます。コースの内容も、「陸路・空路・民泊・旅館泊」といった要素に偏りがないように計画を進めます。様々な過程を経て、「手作りの旅行」が計画されていきます。

さて、この研修旅行にはひとつ大きな魅力があります。それは現地の人々との出会いや触れ合い、そして様々な文化に接することなのです。研修旅行を通じて生徒諸君は実際に様々なことを胸に刻み込むのです。雄大な大自然に接し、地球環境保全の意義をあらためて認識したり、民泊先の方々の暖かな心に触れ、人の情けや愛の尊さを知るのです。

あります。ですから研修旅行が実施される直前は「楽しみだが、始まつて欲しくない・・・・」といふ複雑な心境だったのかもしれません。体育祭が終わり、学園祭、研修旅行・・・一つずつ行事が終わり、やがて彼らの日常はそれぞれのこれから的人生を見つめる日々へと変わっていくのです。少し寂しげでもありました・・・。

四泊五日の研修旅行が終わりました。今年度の旅行は、周防大島における民泊と、広島における平和学習が大きな柱でした。

中二研修旅行を終えて

野々内治里



わります。ですから研修旅行が実施される直前は「楽しみだが、始まつて欲しくない・・・・」という複雑な心境だったのかもしれません。体育祭が終わり、学園祭、研修旅行・・・一つずつ行事が終わり、やがて彼らの日常はそれぞれのこれから的人生を見つめる日々へと変わっていくのです。少し寂しげでもありました・・・。

学生時代に友人とともに共通の思い出を作ることはとても大切です。友人と共に教室で学びそして語り合うことや、学校行事やクラブ活動等の取り組みに友人と一緒に夢中になるという日々が、彼らにとっての無形の宝物になるのです。友人と共に過ごした記憶というものが、やがて社会に出てなんらかの困難に直面したときにも、学生時代の暖かな思い出が自分を励まし勇気を与えてくれます。「苦しいのは自分だけではなく、きっと友人たちも同じなのだろう・・・」と孤独の中から救われるのです。そうした友人との共通の時間が生きる活力になるわけです。そこに学校の素晴らしさがあるのです。この旅行だけでなく、これから

なります。ですから研修旅行が実施される直前は「楽しみだが、始まつて欲しくない・・・・」という複雑な心境だったのかもしれません。体育祭が終わり、学園祭、研修旅行・・・一つずつ行事が終わり、やがて彼らの日常はそれぞれのこれから的人生を見つめる日々へと変わっていくのです。少し寂しげでもありました・・・。

学生時代に友人とともに共通の思い出を作ることはとても大切です。友人と共に教室で学びそして語り合うことや、学校行事やクラブ活動等の取り組みに友人と一緒に夢中になるという日々が、彼らにとっての無形の宝物になるのです。友人と共に過ごした記憶というものが、やがて社会に出てなんらかの困難に直面したときにも、学生時代の暖かな思い出が自分を励まし勇気を与えてくれます。「苦しいのは自分だけではなく、きっと友人たちも同じなのだろう・・・」と孤独の中から救われるのです。そうした友人との共通の時間が生きる活力になるわけです。そこに学校の素晴らしいことがあるのです。

この旅行だけでなく、これから毎日が学生諸君にとって心に残る宝物となってくれることを祈りたいと思います。

中三研修旅行を終えて

野々内治男

四泊五日の研修旅行が終わりました。今年度の旅行は、周防大島における民泊と、広島における平和学習が大きな柱でした。

民泊を行った周防大島は、山口県の瀬戸内海側にある島で、本州とは橋でつながっています。この島で四十四軒 周防大島から船で二十分ほど行った所にある浮島（うかしま）という離島で十一軒のご家庭が生徒たちを受け入れて下さり、民泊を行うことになりました。

湘南学園では、これまで高校生の民泊は毎年のように実施しており、実績を積み重ねてきましたが、中学生の民泊は初となります。実施するにあたり、少々不安な気持ちもありましたが、生徒たちはすぐさま島の方々と打ち解け、仲良くなることができたようです。それぞれのご家庭では、みかん狩りや海釣りをしたり、食事を作つたりして、楽しい時間を過ごすことができました。翌日の離村式（お別れ会）の際には、別れを惜しむ光景があちらこちらで見られました。生徒たちだけではなく、受け入れ

家庭の方々も涙を流しておられたのが印象的でした。その後は、広島に移動し、平和祈念公園で平和学習を行いました。内容としては、被爆者の方々のお話をうかがうことと、原爆資料館見学の二本立てです。今回はより間近でお話を聞いてほしいということから、各クラス二名、合計十名の被爆者の方々にお願いして、ご自身の体験を語っていただきました。被爆者の方々は高齢化が進み、体調を崩されることも多々あるそうです。残念なことではありますが、いずれは実際の被爆体験を持つ方々から、直接お話をうかがうということはできなくなるでしょう。したがって、今回の体験は、極めて貴重なものであり、またとなる機会だったのだと思います。生徒諸君がお話をうかがっている様子を見て回りましたが、教員が特に指示を出していないにもかかわらず、皆真剣にメモをとりながら聞いていました。その姿を見て、この活動を通じ、生徒諸君の心の中に、何かしらの種を蒔くことはできたのではないかと思いました。

今回の研修旅行が、生徒諸君にとって忘れられない思い出となることを、切に願っております。

21世紀の湘南学園小学校へ
—新校舎建設計画の概要かたまる—

小学校校長 審田宏恭

懸案であつた新校舎建設の青写真が決まりました。地域の環境に配慮し、校舎の各所から江の島を望み、湘南のさわやかな風が吹き抜ける新たな学び舎が誕生します。

延床面積 6,852m²（うち既存改修892m²）地上三階、地下一階、塔屋1階の規模ですが、これは現行校舎の約1・5倍の面積を確保することになります。新校舎建設後に現在の東校舎とペールは取り壊されますので、運動場も広くなります。

校舎の中を見てみましょう。中心になつてているのは広々とした吹き抜けのある明るいメディア・センターです。図書室と児童用PCを配置したメディア・センターは小学校の学習の中心基地です。総合学習を始め、児童の自主的な学習を支えるメディア・センターの充実した環境は学習への意欲・関心を飛躍的に高めることになるでしょう。メディア・センターの外にある中庭は明るく開放的な「パティオ」になつております。子供達の交流の場にもなります。



メディアセンターイメージ

採光に十分配慮した明るい教室は、オープンでもクローズでも授業内容によって使い分けられるようになっています。児童用ロッカーも十分にスペースを確保、先生用のコーナーも設けてあります。また音楽室、理科室、図工室など特別教室も実用的かつデザイン性にもこだわったものになつています。

新校舎建設にあわせて、小学校教育の充実に努め、21世紀の湘南学園小学校のあり方を探求してまいります。また幼稚園、中高との連携を進め、湘南学園の発展に寄与していく所存です。今後とも保護者の皆様のご協力、ご支援のほどよろしくお願ひいたします。

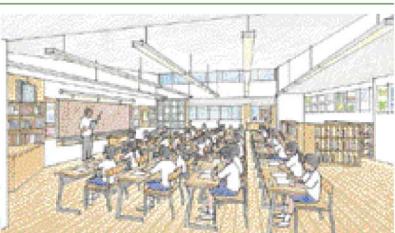
一階の教室は外側にテラスが配置され、天気の良い日などは教室と緑のスペースを一体として使用できるようになつています。これまで通り地下一階に配置される体育館は、全校生徒を入れる

スペースを確保しました。またトイレは屋上に設置されます。また教職員室、保健室は児童の怪我や、病気などに速やかに対応できるように一階中高道路側に配置されますが、それは同時に安全・保安機能を高めることになつています。

その他エコに配慮した光パネルの設置、保護者の方が気楽に集つていただけるような、PTAスペースなども配置されます。

2010年2月末に工事着工予定、2011年4月新校舎仮使用開始、後東校舎解体工事。2012年8月体育館、ペール等完成に

校舎西側外観イメージ



普通教室(6年生)イメージ

校舎全景イメージ



中庭イメージ

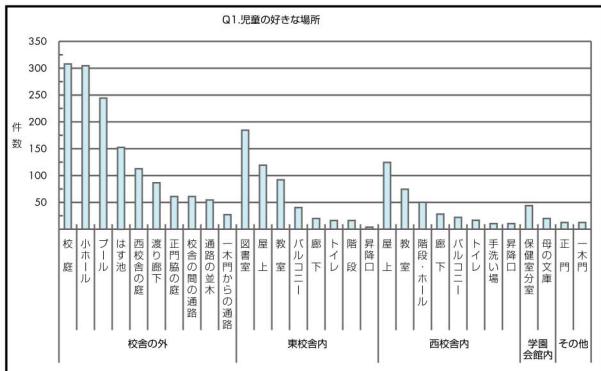
新校舎設計に向けて 児童アンケートの報告

小学校行事主任 河本洋子

新しい校舎を建設するにあたり、児童の意見や希望も取り入れることを目的に、アンケートを2回行いましたので報告いたします。

第1回 (4月中旬実施) 思い出調査のアンケート

Q1. あなたのお気に入りの場所はどこですか?



→グラフからも校庭・小ホール・西校舎の庭など普段からの遊び場とプレールに人気が集中しました。

Q2. 学校でもっと良くして 欲しいところは?

いいですか?

↓「きれいな学校」「遊具や遊び場の充実した学校」という意見が集中しました。また、「楽しく明るい学校」「自然の多い学校」なども多くありました。

第2回 (9月中旬実施) 学園の木のアンケート

Q1. お気に入りの木?

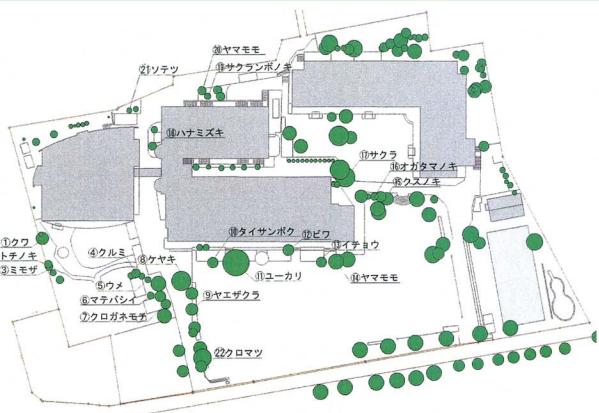
1位…サクラ 2位…ビワ



3位…クワ 4位…ユーカリ

Q2. 新しく植えて欲しい木

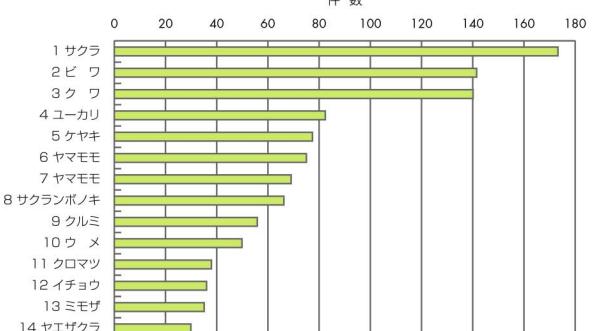
1位…リンゴ 2位…クヌギ
3位…サクラ 4位…ミカン



【児童会掲示板で児童へ報告】

Q1.お気に入りの木

件数



『動物園へ行こうよ♪』

～年長組秋の遠足～ 年長組学年主任 今井里恵



木々が色づき、実り豊かな秋は幼稚園の遠足シーズンです!!

一番小さな年少組はみんなで歩いて近隣の公園へ、お兄さんお姉さんの年中組はスクールバスに乗つて茅ヶ崎里山公園に足を伸ばすなど、自然に触れ、季節の移り変わりを感じながら園外保育を楽しめました。

そんな中でも年長組の秋の遠足は、幼稚園のリーダーならではのビッグイベントです。行き先は『横浜市立金沢動物園』。年少・年中組を休園とし、幼稚園全員のスタッフ比率のもと、観光バスで出掛けます。

「さくらさん60人みんなで大きな大きな観光バスに乗つて、動物園へ出掛けます！」遠足を知らせる学年だよりが配られたその日から、「やった～!!」年長組の子ども達はウキウキ・わくわく遠足の日を楽しみにし、動物園の話題が盛り上がっていました。

さくら1組担任 姫野貴美子

お部屋には動物の写真やホームページに載っていた赤ちゃんと情報

などを、子供達が自然と目にできるように置いておきました。すると図鑑やパンフレットを見ながら動物の名前や特徴を調べたり、赤ちゃんの名前を覚えたりと、もうみんなすっかり動物園博士！「サイの赤ちゃんはブンタって言うんだよ。」「コアラのテルちゃんに会いたい！」と動物園への期待を大きく膨らませ、いよいよ出発です。

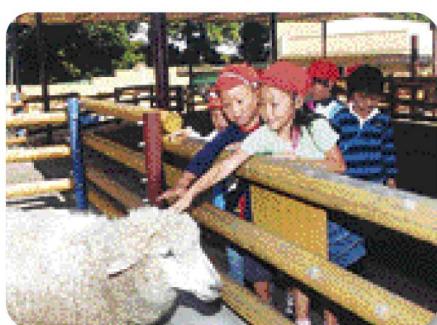
遠足当日の十月二十一日は爽やかな秋晴れに恵まれました。心配していたインフルエンザによる影響もなく、みんなとびっきりの笑顔で集合場所へと集まつてきました。

スクールバスに乗つて出掛けたことはあつたものの、みんなで観光バスに乗るのは初めての経験です。「うわ～ジユース置くテーブルが出てきたよ！」「こつちには荷物かけるところもあつた」「テレビまでついてる！観光バスってすごいね～!!」いろいろな発見に子ども達は大興奮！1時間ほどの道中も先生による寸劇やバスレク

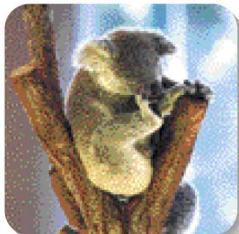
トや動物の写真・図鑑を自由に目にできる環境を用意したり、動物の話題を取り上げたりし、楽しみに待つ気持ちを盛り上げていきました。パンフレットに載つている動物と図鑑を照らし合わせながら、「ウォンバットっていう動物もいるんだって！」「コアラの赤ちゃんもいるってよ！」と知らせてくれる子もいました。このようにして、動物のこと、金沢動物園のことを知りながら当日を心待ちにしていました。

さくら2組担任 進藤加央里

部屋に金沢動物園のパンフレットや動物の写真・図鑑を自由に目にできる環境を用意したり、動物の話題を取り上げたりし、楽しみに待つ気持ちを盛り上げていきました。パンフレットに載つている動物と図鑑を照らし合わせながら、「ウォンバットっていう動物もいるんだって！」「コアラの赤ちゃんもいるってよ！」と知らせてくれる子もいました。このようにして、動物のこと、金沢動物園のことを知りながら当日を心待ちにしていました。



「ヒツジさんの毛フワフワして気持ちいいね」



「次は何の動物がいるかなぁ？」

湘南学園だより

1組

白グループ 前田晃美

「次はどんな動物にあえるのかな」と秋の自然を体いつぱいに感じながら、心も友達とのお話はずんでいた子ども達でした。

1組 赤グループ 館内祐樹

生で見るゾウやキリンの迫力に大興奮。赤や黄の落ち葉や木の実を集めをしながら会話を楽しむ子ども達の姿がとても印象的でした。

1組 桃グループ 藤田さつき

一緒に弁当を食べながら、見てきた動物の名前を挙げていった次々と名前が出てきて驚きました。さすが年長児!!

2組

白グループ 稲川仁美

「像の背中にも毛が生えてるよ」と細かいところまで動物たちを見る力はさすがさくらさん。子どもたちの真剣な目が素敵でした。

2組 赤グループ 斎藤かおる

首の長いキリンに焦点を当てた子ども達の眼は真剣そのもので、声を掛けるのも悪い程。小さな画家さんの成長に感動の秋でした。

2組 桃グループ 中川貴義

特徴ある角や毛並みなど一種類ずつじっくりと動物を見て、いたグループで、動物の絵を描く時間にはとても集中していました。

遠足後

遠足後も「動物園に行つたとき楽しかったね」と引率してくれた先生に他学年の部屋まで声を掛けに行つたり、シロテナガザルの鳴き声を思い出し真似してみたりと、しばらくの間遠足の話題が盛り上がり、楽しかったひとときの余韻を味わう姿が見られました。

また、印象に残った動物をクリヨンで描いたり、紙粘土で作つてみたりと造形活動へもつながっています。「アミメキリンの舌って黒かったよね!」「インドゾウつてよく見たら背中に毛が生えてたよ。」その時の驚きや興奮を思い出しながら作つた動物達はどれも本当にイキイキとし、今にも動き出しそう!!自分の目で見て、発見して、感じたからこそ表現できた作品の数々は、眺めているだけでもミニミニ動物園に来たような樂しい気分になります。同じ動物を見ていても、どれひとつ同じ形・同じ色ではなく、子ども達一人ひとりの視点や感じたままに表現でできる豊かな力にはいつも感心させられます。十一月のがちやべたらんど(造形展)では沢山のお客さまに子ども達の作品を見て頂くことも出来ました。



遠足後のお楽しみにはまだ続ぎがありました。1学期に植えた幼稚園裏庭のさつきもが大きくなりました。幼稚園でもせつせと落ち葉を積むかえ、「焼き芋にして食べたい!」と張り切っていた年長さん。実は動物園でもせつせと落ち葉を集め、幼稚園に持ち帰っていたのです。年少さん・年中さんもそれぞれのお散歩先で落ち葉集めに力を貸してくれ、大量に集まつた落ち葉で焼き芋パーティ!3学年みんなでほかほかアツアツの焼き芋を味わいました。

見て、感じて、遊んで、作つて味わつて:思いつきり秋を満喫した幼稚園の子ども達です。

【理 事 会 報 告】

- ・中高理科教育設備の国庫補助金申請について

第1回定期理事会	4月27日
第1回臨時理事会	5月9日
第2回臨時理事会	5月23日
第2回定期理事会	5月30日
第3回定期理事会	6月16日
第4回定期理事会	7月6日
第3回臨時理事会	7月27日
第5回定期理事会	8月18日
第4回臨時理事会	8月26日
第6回定期理事会	9月11日
第5回臨時理事会	9月26日
第7回定期理事会	10月9日
第8回定期理事会	11月2日

【主な議題】

- ・中高メディア教室のコンピュータの入替えについて
- ・PTA学園会館代替施設の開設について
- ・サーバーパックアップシステムの購入について
- ・中高図書室のリニューアルについて
- ・災害時避難施設に関する藤沢市との協定の見直しについて
- ・湘南学園職制規程等の改正について
- ・就業規則等の改定について
- ・学園長選任規程の改定について
- ・次期学園長の選任について
- ・小学校校舎建設工事に関する見解書について
- ・小学校校舎建設施工業者選考について
- ・中高メディア教室のコンピュータの入替えについて
- ・PTA学園会館代替施設の開設について
- ・サーバーパックアップシステムの購入について

か ら

【評 議 員 会 報 告】

第1回評議員会	4月18日
第2回評議員会	5月30日
第3回評議員会	9月26日

【主な議題】

- ・オーストラリアセミナー実施及びノックス・スクール受け入れについて
- ・新型インフルエンザ対策について
- ・就業規則等の改定について
- ・学園長選任規程の改定について
- ・湘南学園職制規程等の改正について
- ・欠員理事の補充について
- ・2008(平成20)年度事業報告
- ・2008(平成20)年度決算報告
- ・湘南学園職制規程の制定について
- ・理事・評議員選任規程の改定について
- ・学園長の選任について
- ・小学校建設の進捗報告
- ・後援会設立の進捗状況報告

今後の予定

校 法 人 か ら

か ら

【1月】

- 8日 幼 小 始業式
- 9日 中 高 授業開始
- 10日 幼 第2回新入保護者会
- 11日 中 高 合唱コンクール

【2月】

- 2日 中 学入試（3・6日）
- 3日 小 制作展・器楽発表会
- 4日 中 新入生招集日
- 5日 幼 年長子ども会（表現発表会）
- 6日 小 半日入学・造形展
- 7日 小 造形展（～22日）
- 8日 幼 觀劇（人形劇）
- 9日 幼 年長組お別れ遠足

【3月】

- 1日 中 高 学年末試験（～5日）
- 2日 小 幼 年長懇談会
- 3日 小 5年学年末テスト（～6日）
- 4日 中 高 半日入園
- 5日 小 幼 卒業式
- 6日 高校 卒業式
- 7日 幼 修了式
- 8日 小 終業式

